

日本の火山活動概況 (2008年3月~4月)

気象庁

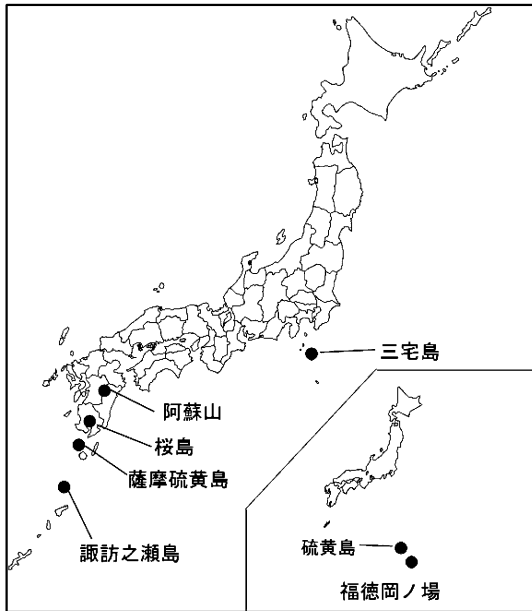


図 1. 2008年3月~4月に目立った活動があった火山

三宅島 (34°05'37"N, 139°31'34"E)

4月15日及び21日に島内で行ったDOAS(紫外線差分吸収分光計)を用いたトラバース法による火山ガス観測では、二酸化硫黄放出量は一日あたり1,000~2,000トンで、依然として多量の火山ガス放出が続いている。また、三宅村の火山ガス濃度観測でも、山麓でたびたび高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

火山性地震は増減を繰り返しながらやや多い状態が続いている。発生した地震のほとんどがやや低周波地震(約3~10Hzが卓越する地震)で、高周波地震(約10Hz以上が卓越する地震)も時々発生した。震源はいずれも山頂火口直下浅部と推定される。4月11日には空振を伴う振幅の大きな低周波地震(約3Hz以下が卓越する地震)が発生し、三宅村神着及び三宅村坪田で震度1を観測した。その後行った現地調査では降灰は認められなかった。

火山性微動は観測されなかった。

山頂火口の噴煙高度は火口縁上100~200mで推移した。全磁力観測では、火口直下の熱帯磁が鈍化しながらも

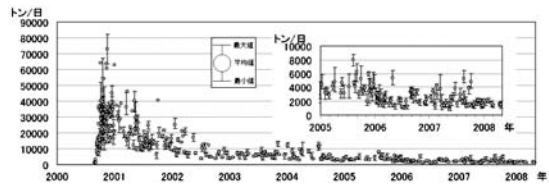


図 2. 三宅島 火山ガス(二酸化硫黄)放出量の変化(2000年8月~2008年4月)

続いている。

GPS連続観測では、山体浅部の収縮と深部の膨張が継続している。

硫黄島 (24°45'03"N, 141°17'20"E)

国土地理院及び防災科学技術研究所の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過しているが、島全体が大きく隆起する地殻変動は鈍化したものの継続している。

福德岡ノ場 (24°17.1'N, 141°28.9'E)

海上自衛隊及び第三管区海上保安本部が行った上空からの観測によると、火山活動によるとみられる変色水が確認された。

阿蘇山 (32°53'01"N, 131°05'49"E (中岳))

中岳第一火口の湯だまりの湯量や表面温度に変化はない。中岳第一火口南側火口壁の一部の噴気孔では引き続き赤熱現象が確認されている。

孤立型微動の回数は多い状態が続いており、3月31日から4月3日にかけて一時的に一日あたり600回を超えた。これらの振幅は概ね小さいものであった。

4月3日及び30日に行ったDOAS(紫外線差分吸収分光計)を用いたトラバース法による火山ガス観測では、二酸化硫黄放出量は一日あたり200~500トンで、やや少ない状態が続いている。

桜島 (31°34'38"N, 130°39'32"E (南岳))

昭和火口では、4月3日以降噴火が時々発生した。8日には爆発的噴火が発生し、火砕流が昭和火口の東約1kmまで流下したほか、弾道を描いて飛散する噴石が5合目まで達した。このほかにも、11日、13日及び14日も爆発的噴火が発生し、弾道を描いて飛散する噴石が5~7合目まで達したが、火砕流は発生しなかった。

4月4日以降夜間、昭和火口で高感度カメラで捉えら

れる程度の火映が時々観測されている。

南岳山頂火口では、3月11日、18日及び4月28日にごく小規模な噴火が発生した。

島内の DOAS (紫外線差分吸収分光計) を用いたトラバース法による二酸化硫黄放出量は、一日あたり 200～700 トンで経過していたが、4月3日以降の観測では一日あたり 1,500～3,000 トンに増加している。

火山性地震及び火山性微動は少ない状態で経過している。

国土地理院の GPS 連続観測では、始良カルデラ (鹿児島湾奥部) の地下深部へのマグマ注入による膨張が続いている。

薩摩硫黄島 (30°47'35"N, 130°18'19"E (硫黄岳))

硫黄岳山頂火口の噴煙活動は依然としてやや活発な状態が続いており、噴煙高度は火口縁上概ね 200m で推移した。

火山性地震はやや多い状態が続いている。発生した地震の多くが B 型地震で、A 型地震も時々発生した。いずれも震源は硫黄岳山頂火口直下と推定される。振幅が小さく継続時間の短い火山性微動が時々観測された。

諏訪之瀬島 (29°38'18"N, 129°42'50"E (御岳))

爆発的噴火が時々発生したほか、小規模な噴火も発生した。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

(お知らせ) 最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm

(文責: 気象庁地震火山部火山課 加藤幸司)

○教員の公募について

【東京工業大学火山流体研究センター】

1. 公募人員: 教授または准教授 1名
2. 公募分野: 火山学

ただし、以下の4つの条件をすべて満たす必要があります。

- (1) フィールドワークに基づいて、火山学の研究を、世界最先端レベルで推進することができること。
- (2) 全国の火山噴火予知関連大学のネットワーク拠点 (火山・地殻流体研究拠点) として、火山噴火予知研究を推進することができること。
- (3) 化学専攻あるいは地球惑星科学専攻に所属する教

員と協力して、学生および大学院生の教育・研究指導を積極的に実施できること。

- (4) 教授の場合には、草津白根火山観測所の運営を行うこと。

3. 応募資格: 博士の学位を有する方

4. 着任時期: 決定後できるだけ早い時期

5. 提出書類:

- (1) 履歴書 (高校卒業からの学歴および職歴)
- (2) これまでの研究業績の概要 (2000 字程度)
- (3) 業績・実績リスト (査読論文とそれ以外の総説、著書、学生・院生の指導実績、学会活動、外部資金獲得実績、関連諸団体の委員、その他に分類すること)
- (4) 主要論文別刷 (コピー可) 5 編以内
- (5) 今後の研究計画 (2000 字程度)
- (6) 今後の教育計画 (2000 字程度)
- (7) 火山流体研究センターおよび草津白根火山観測所の運営に関する抱負 (2000 字以内) (ただし教授に応募する場合のみ必要)
- (8) 申請者に関して意見を伺える者 4 名 (国内 2 名、海外 2 名) の氏名、住所、電子メールアドレス

6. 応募の締切: 平成 20 年 7 月 18 日 (金) 必着

7. 応募書類提出先:

〒152-8551 東京都目黒区大岡山 2-12-1 H-75

東京工業大学 理学系事務係長宛

封筒の表に「火山流体研究センター 教授応募 (あるいは准教授応募) 書類在中」と朱書きし、郵便書留で送付してください。なお、提出された書類の返却は致しません。

8. 問い合わせ先:

〒152-8551 東京都目黒区大岡山 2-12-1 H84

東京工業大学 火山流体研究センター 小川康雄

電話 03-5734-2639

電子メール oga@ksvo.titech.ac.jp

なお、火山流体研究センターは、国の火山噴火予知研究計画を推進するために設置された施設で、平成 21 年度からは全国の地震・火山噴火予知関連大学のネットワークにおいて“火山・地殻流体研究拠点”となることが決定しています。現在、火山流体研究センターには、渋谷一彦教授 (センター長併任, 化学専攻), 小川康雄教授 (草津白根火山観測所長, 火山物理学), 大場武准教授 (火山化学), 野上健治准教授 (火山化学) が在職しております。詳しくは WEB をご覧ください。

<http://www.ksvo.titech.ac.jp/index.html>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 5 月 22 日送信しました)